

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | キャリア教育 | | |
|---|---------|--------------------------------------|------------|--------|
| 科目名 | キャリア教育Ⅶ | 担当教員名 | 山本 竜太 | |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 703教室 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| 人間教育として社会出ていく人間的基盤の構築と、専門学校生活に伴う基本的な心構えやグループワークに伴う他者と自我の認識の構築。社会に出ていくための基本的なマナーの構築。TPOや常識的な感覚を養う。また報・連・相の徹底や、クラスのノームの構築と健全なクラス運営を目指す。 | | | | |
| 授業の内容 ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | | | |
| グループ構成の認識、メールのマナーや社会常識のマナー講義、マナー講座、社会生活を営む上での心構えなど社会人基礎力向上のための講座。 | | | | |
| 【実務経験】大学卒業後、同大学研究室の助手として2年間勤務。その間、映画監督で脚本家の中島貞夫氏に師事し、映画の現場などを経験する。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | イベント制作演習① | | |
| 2 | 演習 | イベント制作演習② | | |
| 3 | 演習 | イベント制作演習③ | | |
| 4 | 演習 | イベント制作演習④ | | |
| 5 | 講義 | 新人発掘プレゼンテーションガイダンス④ | | |
| 6 | 講義 | オーディション対策 | | |
| 7 | 講義 | イベント現場のルール | | |
| 8 | 講義 | 契約書について | | |
| 9 | 講義 | ITリテラシー(メール) | | |
| 10 | 講義 | ITリテラシー(時事問題) | | |
| 11 | 講義 | 目標シート作成② | | |
| 12 | 講義 | マナー講座(保険、税金、確定申告) | | |
| 13 | 講義 | 著作権について | | |
| 14 | | (ワークショップ) | | |
| 15 | | (ワークショップ) | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 3.課題(100%) | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | キャリア教育 | |
|---------------|---|---------------------|-------|
| 科目名 | キャリア教育Ⅷ | 担当教員名 | 山本 竜太 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 |
| 授業の到達目標 | 人間教育として社会出ていく人間的基盤の構築と、専門学校生活に伴う基本的な心構えやグループワークに伴う他者と自我の認識の構築。社会に出ていくための基本的なマナーの構築。TPOや常識的な感覚を養う。また報・連・相の徹底や、クラスのノームの構築と健全なクラス運営を目指す。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する グループ構成の認識、メールのマナーや社会常識のマナー講義、マナー講座、 社会生活を営む上での心構えなど社会人基礎力向上のための講座。 【実務経験】大学卒業後、同大学研究室の助手として2年間勤務。その間、映画監督で脚本家の中島貞夫氏に師事し、映画の現場などを経験する。 | | |
| 【実務経験】 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 新人発掘プレゼンテーションガイダンス⑤ | |
| 2 | 演習 | 新人発掘プレゼンテーションガイダンス⑥ | |
| 3 | 演習 | 定量的目的と定性的目的について | |
| 4 | 演習 | 社会人基礎力⑦発信力 | |
| 5 | 講義 | 社会人基礎力⑧傾聴力 | |
| 6 | 講義 | 社会人基礎力⑨柔軟性 | |
| 7 | 講義 | 社会人基礎力⑩状況把握力 | |
| 8 | 講義 | 社会人基礎力⑪規律力 | |
| 9 | 講義 | 社会人基礎力⑫ストレスコントロール力 | |
| 10 | 講義 | 文書作成について、5W1Hについて | |
| 11 | 講義 | イベント制作演習⑤ | |
| 12 | 講義 | イベント制作演習⑥ | |
| 13 | 講義 | イベント制作演習⑦ | |
| 14 | | (ワークショップ) | |
| 15 | | (ワークショップ) | |
| 準備学習 時間外学習 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 3.課題(100%) | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | パフォーマンス | |
|--|--|--------------------------------|--------|
| 科目名 | ソングライティングGt | 担当教員名 | 引田 寿徳 |
| 時間数 | 60 | 必修 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 4年次 前期 |
| 授業の到達目標 | | 教室 | EN632 |
| ギターを使用し、作曲、編曲が出来る技術を習得する事を目的とする。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ギターを使用し、メロディ、ハーモニー、リズムの関係性を習得する。発想を効率良く形にするには。 | | |
| 【実務経験】 OSM卒後、LAに移住。David Lee Roth Bandに加入。Hideous Sun Demonsで全米デビュー。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | ギターを演奏する上での力の使い方。 | |
| 2 | 演習 | ギター上で音程、音の動きを把握する。 | |
| 3 | 演習 | メジャースケール。2本の弦でスケール音の組合せを考える。 | |
| 4 | 演習 | マイナースケール。2本の弦でスケール音の組合せを考える。 | |
| 5 | 演習 | ダイアトニックコードとは。左手の動きを考える。 | |
| 6 | 演習 | メロディーの型。ある音からどうやって動くのか。 | |
| 7 | 演習 | 3コード上でメロディーを作成。メロディーのパターンを考える。 | |
| 8 | 演習 | コードのグループ分け。小節への配置。 | |
| 9 | 演習 | コードヴォイシング。楽にコードチェンジするには。 | |
| 10 | 演習 | メロディーとハーモニーの関係。 | |
| 11 | 演習 | ストーリーを考える。各場面(レットル)のメリハリを出すには。 | |
| 12 | 演習 | ケーデンスとは。転調、一時転調とは。 | |
| 13 | 演習 | リズム。パルスやアクセント、シンコペーションとは。 | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | |
| 準備学習 | 各自 楽曲制作 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技試験80% 課題20% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | パフォーマンス | |
|---|--|---|---------|--------|
| 科目名 | 作曲ゼミ | | 担当教員名 | 小林 哲 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 605 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。 自曲のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。 | | | | |
| 授業の内容 ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | | | |
| メロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。基礎的なコードワークも併せて学ぶ。 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | この授業で最低限必要になる、Cubase の基本操作の習得 | | |
| 2 | 演習 | 全音符、2分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音の使い方。 | | |
| 3 | 演習 | 4分、8分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音+代理和音の使い方。 | | |
| 4 | 演習 | 8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 1/Minor Key コードワーク | | |
| 5 | 演習 | 8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 2/Secondary Dominant 追加 1 | | |
| 6 | 演習 | 個別データチェック/アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 7 | 演習 | シンコペーションを用いたメロディーメイク/Secondary Dominant 追加 2 | | |
| 8 | 演習 | 3拍子系のメロディーメイク/Secondary Dominant 追加 3 | | |
| 9 | 演習 | 16シャッフルのメロディーメイク/Dominant Chord バリエーション 1 | | |
| 10 | 演習 | 8シャッフルのメロディーメイク/Dominant Chord バリエーション 2 | | |
| 11 | 演習 | 個別データチェック/アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 12 | 演習 | SDmを使った進行に対してのメロディーメイク/SDmを使った進行 | | |
| 13 | 演習 | バラードメロディーメイク 1 (Major Key 1) | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。 Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 3、課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | なし | | |
| | 参考書 | なし | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | パフォーマンス | |
|---------------|---|---------------------------|-------|
| 科目名 | Gtハーモニック | 担当教員名 | 森島 達雄 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 |
| 授業の到達目標 | ポピュラー、ロックの楽曲を演奏するに於て、必要なコードの知識、リズムの知識スケールの知識を総合的に身につける。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 講師作成の譜面、音源を使用して様々なタイプの楽曲の演奏をメロディープレイからと、バックアッププレイの両面から学習していく。同時にアンサンブル感覚も育成する。 【実務経験】1979年よりプロとしての演奏活動を始める。平行して同年よりヤマハ音楽振興会にてレッスン活動も始める。現在に至るまで、数多くのライブサポート、レコーディング、テキスト開発に携わっている。 | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | トライアドポジション&コードワーク | |
| 2 | 演習 | アンサンブル&クリニック | |
| 3 | 演習 | 1 6 ビートリフワーク&コードワーク | |
| 4 | 演習 | アンサンブル&クリニック | |
| 5 | 演習 | 1 6 ビートシャッフルリフワーク&コードワーク① | |
| 6 | 演習 | 1 6 ビートシャッフルリフワーク&コードワーク② | |
| 7 | 演習 | アンサンブル&クリニック | |
| 8 | 演習 | 3連バラードメロディー&コードワーク① | |
| 9 | 演習 | 3連バラードメロディー&コードワーク② | |
| 10 | 演習 | アンサンブル&クリニック | |
| 11 | 演習 | メジャーペンタトニックメロディー&コードワーク① | |
| 12 | 演習 | メジャーペンタトニックメロディー&コードワーク② | |
| 13 | 演習 | アンサンブル&クリニック | |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 準備学習 時間外学習 | 毎回積み重なっていく授業のため必ず復習する。 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技試験100% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | パフォーマンス | |
|---|-----------------|---|----------|--------|
| 科目名 | Keyファundamental | | 担当教員名 | 元岡 衛 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | EN332 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| 予習、復習の習慣化。アドリブソロの組み立て。リズムの違いを理解する。様々なジャンルに対応出来る奏法を習得する。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| 自身のメソッドを用いて進めて行く。 | | | | |
| 【実務経験】4歳からクラシックピアノを習い始める。1989年に大阪スクールオブミュージック専門学校インストラクター科を卒業後、ピアノ講師を始める。2002年から現在に至るまでキーボード講師を続けながら関西を中心にライブ活動を行う。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | Chordの理解力等レベルチェック | | |
| 2 | 演習 | 8 beat Ballad奏法 | | |
| 3 | 演習 | 12/8beat Ballad奏法 | | |
| 4 | 演習 | Diatonic Chordの説明 | | |
| 5 | 演習 | II m7-V7-I △7の説明 | | |
| 6 | 演習 | II m7-V7-I △7のメソッド | | |
| 7 | 演習 | II m7-V7-I △7 | | |
| 8 | 演習 | Blues 8 beat 奏法 | | |
| 9 | 演習 | Blues 8 beat 奏法 | | |
| 10 | 演習 | Blues Shuffle 奏法 | | |
| 11 | 演習 | Blues Shuffle 奏法 | | |
| 12 | 演習 | Bossanova Snmba 奏法 | | |
| 13 | 演習 | Bossanova Snmba 奏法 | | |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) | | |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 復習として授業で習った内容を翌週も弾けるようにしておく。 | | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技試験100% | |
| 教材 | 教科書 | 特になし | | |
| | 参考書 | 特になし | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | パフォーマンス | |
|---------|---|--|---------|--------|
| 科目名 | ヴォーカルテクニック | | 担当教員名 | 山本尚希 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | EN531 |
| 授業の到達目標 | 発声・歌唱力の技術を使い、課題曲（コーラスがある曲を選択）行う。ハーモニーを聞く力、どうなれより美しくアンサンブルできるようになる。またそれにもなう譜面を読む力、コーラスを行う、チームメイト・パートナーとの成長に繋がるコミュニケーション能力を高める | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する それぞれがベストを尽くして、行う事をゴールとして、課題曲の模範演奏をし、生徒達に完成の形または、なりたい景色を想像させて、音楽知識、発声の技術を使いながら、会話、ハーモニーを作る、生徒により個人差があるが、個々に成長に向けた課題をあたえ、チャレンジし続ける環境を作る。この授業内では、指摘、しかる、責める環境を作らず、彼からが自主的に、挑戦し、学び、夢中になる環境に 【実務経験】 ゴスペルグループソウルマティックスのsingerとして活動し、k-popアーティスト、劇団四季の俳優を指導。ゴダイゴ・ベーチェェョル・ももクロ、その他業界の方と共演。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 授業の方向性。内容を伝えて、理解していただく、その上で、3週間に1曲コーラスがある曲をおこなう。事を伝える。 amazing grace 30名のクラスで4チーム作成する。 | | |
| 2 | 演習 | チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。 | | |
| 3 | 演習 | 課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション | | |
| 4 | 演習 | 新曲提出（前回の発表を元に、個人差がある音楽知識をうめるための課題を個々にだす。 | | |
| 5 | 演習 | チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。 | | |
| 6 | 演習 | 課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション、チームごとに良かった事、次の課題をまとめて クラスで発表 新曲提出、コーラス音振り | | |
| 7 | 演習 | 新曲提出 難易度をあげた曲、ここでは一つ一つできる事を講師と共に増やして授業をおこなす。 | | |
| 8 | 演習 | チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。 | | |
| 9 | 演習 | チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。 | | |
| 10 | 演習 | 課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション、チームごとに良かった事、次の課題をまとめて クラスで発表 新曲提出、コーラス音振り | | |
| 11 | 演習 | 新曲提出 | | |
| 12 | 演習 | チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。 | | |
| 13 | 演習 | チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。 | | |
| 14 | 演習 | 課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション、チームごとに良かった事、次の課題をまとめて クラスで発表 新曲提出、コーラス音振り、これまでの課題曲をそれぞれに割り当てて4チーム でライブをおこなう | | |
| 15 | 演習 | 課題曲のライブ発表会（前期のリフレクション） | | |
| 準備学習 | 与えられた課題曲・音域内での発声練習 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技試験 | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | コンポジション | |
|---------------|---|---------------------------------|---------|-------------|
| 科目名 | Co-Writing2 | | 担当教員名 | 北野 正人 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 301・903・606 |
| 授業の到達目標 | <p>アナログ機器を学ぶことによって、DAWがいかにアナログのシミュレートであるかを理解でき、物理的な音楽制作の仕組みを理解することを目的とする。</p> <p>音の原理を学び、飽和を理解し、音数に頼らない、よりプロとしての音楽制作ができることが目標。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ProToolsを使用。前年度で学んだ内容からのアドバンス。より決められた時間の中で、実践的にスムーズなトラック作成を学んでいきます。2年生の授業も選択可。前年度選択していなければ、2年次の授業を受けてもらいます。</p> <p>【実務経験】 day after tomorrow(avax trax)のメンバーとして、第44回日本レコード大賞新人賞、第17回日本ゴールドディスク大賞ニュー・アーティスト・オブ・ザ・イヤー受賞、ベストヒット歌謡祭2003ゴールド・アーティスト賞を受賞、現在所属事務所は株式会社ハウフルス、レーベルはVapに在籍</p> | | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | インラインコンソールとミキシングコンソールの違いを学ぶ | | |
| 2 | 演習 | 各種バッチ、ルーティング、信号の流れを学ぶ | | |
| 3 | 演習 | トラックング実践1 (2週にわたって1曲のトラックングを学ぶ) | | |
| 4 | 演習 | トラックング実践1 (続き) | | |
| 5 | 演習 | トラックング実践1の分解 | | |
| 6 | 演習 | トラックング実践2 (2週にわたって1曲のトラックングを学ぶ) | | |
| 7 | 演習 | トラックング実践2 (続き) | | |
| 8 | 演習 | トラックング実践2の分解 | | |
| 9 | 演習 | トラックング実践3 (2週にわたって1曲のトラックングを学ぶ) | | |
| 10 | 演習 | トラックング実践3 (続き) | | |
| 11 | 演習 | トラックング実践3の分解 | | |
| 12 | 演習 | 試験と振り返り | | |
| 13 | 演習 | 試験と振り返り | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 各自、自分のセッションデータやパラデータを持参し、授業内で使用できるようにしておく 復習として授業で習ったデータ作成時の注意点等は持参のセッションに常に反映させておくこと | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1) 実技試験 100% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | コンポジション | |
|---------------|---|---|---------|--------|
| 科目名 | メロディメイク1 | | 担当教員名 | 小林 哲 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 605 |
| 授業の到達目標 | Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。自曲のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載するメロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で、週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。基礎的なコードワークも併せて学ぶ。</p> <p>【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめピーピング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | この授業で最低限必要になる、Cubase の基本操作の習得 | | |
| 2 | 演習 | 全音符、2分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音の使い方。 | | |
| 3 | 演習 | 4分、8分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音+代理和音の使い方。 | | |
| 4 | 演習 | 8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 1／Minor Key コードワーク | | |
| 5 | 演習 | 8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 2／Secondary Dominant 追加 1 | | |
| 6 | 演習 | 個別データチェック／アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 7 | 演習 | シンコペーションを用いたメロディーメイク／Secondary Dominant 追加 2 | | |
| 8 | 演習 | 3拍子系のメロディーメイク／Secondary Dominant 追加 3 | | |
| 9 | 演習 | 16シャッフルのメロディーメイク／Dominant Chord バリエーション 1 | | |
| 10 | 演習 | 8シャッフルのメロディーメイク／Dominant Chord バリエーション 2 | | |
| 11 | 演習 | 個別データチェック／アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 12 | 演習 | SDmを使った進行に対してのメロディーメイク／SDmを使った進行 | | |
| 13 | 演習 | バラード メロディーメイク 1 (Major Key 1) | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。 Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 3、課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | なし | | |
| | 参考書 | なし | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | コンポジション | |
|---------------|---|-------------------------|---------|--------|
| 科目名 | メロディメイク2 | | 担当教員名 | 小林 哲 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 605 |
| 授業の到達目標 | <p>Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。自曲のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>メロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で、週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。基礎的なコードワークも併せて学ぶ。</p> <p>【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 内容に沿った8～16小節のメロディー作成 | | |
| 2 | 演習 | 内容に沿った8～16小節のメロディー作成 | | |
| 3 | 演習 | アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 4 | 演習 | 内容に沿った8～18小節のメロディー作成 | | |
| 5 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 6 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 7 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 8 | 演習 | アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 9 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 10 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 11 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 12 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 13 | 演習 | アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | <p>様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。</p> <p>Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。</p> | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 3、課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | なし | | |
| | 参考書 | なし | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | コンポジション | |
|---|-------|---|-----------|--------|
| 科目名 | 作詞技法4 | | 担当教員名 | 木下 智哉 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 601 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| 制作スピードの向上、制作スキルの向上、柔軟な対応力の強化。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | | | |
| 作詞の実践。様々な楽曲ジャンルの作詞の制作を行い、商業音楽制作における対応力を養う。 | | | | |
| 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。 | | | | |
| 5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。 | | | | |
| 関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。 | | | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える | | |
| 2 | 演習 | イメージ作詞 / 漫画・映像からのインスピレーションで作詞する | | |
| 3 | 演習 | イメージ作詞 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い／楽曲アナライズ1 | | |
| 4 | 演習 | コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える | | |
| 5 | 演習 | シーズンもの作詞 / 季節のイベントにあわせて作詞する | | |
| 6 | 演習 | シーズンもの作詞 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い | | |
| 7 | 演習 | コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える | | |
| 8 | 演習 | タイアップ案件 / 実際の発注書から、オーダーを読み解き作詞する | | |
| 9 | 演習 | タイアップ案件 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い／楽曲アナライズ2 | | |
| 10 | 演習 | アルバム案件 / 実際の発注書から、オーダーを読み解き作詞する | | |
| 11 | 演習 | アルバム案件 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い | | |
| 12 | 演習 | 作詞プロデュース.1> 企画書、キャラクターコンセプト制作、楽曲イメージ作成 | | |
| 13 | 演習 | 作詞プロデュース.1> 制作／発表 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 制作時間内に書き上がらなかった場合は、持ち帰っての制作あり。 | | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 3. 課題100% | |
| 教材 | 教科書 | 授業時に配布するプリント各種。 | | |
| | 参考書 | なし | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | コンポジション | | |
|---------------|---|-----------------|------|--------|
| 科目名 | 作曲技法4 | 担当教員名 | 小林 哲 | |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 803 |
| 授業の到達目標 | 初級～中級コードワークの習得。自作曲への応用。 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作曲りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。 (Minor Diatonic Chord Progression ～ Non Diatonic Chords ～ Tension)</p> <p>【実務経験】 作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 応用理論の学習① | | |
| 2 | 演習 | 応用理論の学習② | | |
| 3 | 演習 | 応用理論の学習③ | | |
| 4 | 演習 | 応用理論の学習④ | | |
| 5 | 演習 | 応用理論の学習⑤ | | |
| 6 | 演習 | 応用理論の学習⑥ | | |
| 7 | 演習 | 応用理論の学習⑦ | | |
| 8 | 演習 | 応用理論の学習⑧ | | |
| 9 | 演習 | 応用理論の学習⑨ | | |
| 10 | 演習 | 応用理論の学習⑩ | | |
| 11 | 演習 | 応用理論の学習⑪ | | |
| 12 | 演習 | 後期内容の復習⑫ | | |
| 13 | 演習 | 後期内容についてのレポート作成 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 自曲のコードワークの見直し。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 2、筆記試験 100% | | |
| 教材 | 教科書 | なし | | |
| | 参考書 | なし | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ステージ／イベント | |
|---|-----------|---|-----------|--------|
| 科目名 | 舞台美術デザイン1 | | 担当教員名 | あまのしげ |
| 時間数 | 60 | 必須 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | 舞台美術工房 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| 舞台美術デザインの基礎的表現力を身につけることができる。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>1982年の活動開始より、44回にわたり個展を開催。岸和田市文化振興審議会委員、岸和田市景観審議会委員、岸和田文化事業協会理事等を歴任。大阪芸術大学、四国大学で非常勤講師を勤めた。市民講座「絵画のひみつ」を岸和田市、和泉市、豊中市、堺市などで行った。現在、毎日文化センター講師、大阪芸術大学通信教育部講師。</p> <p>舞台美術デザインの基礎的演習を行う。デザイン表現に於いて、創造力、表現力と何事かへの関心度が求められる。演習課題から基礎的表現力をつけ、さらには自主的に表現することの喜びを感じ取ってもらいたい。</p> | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 授業のあらましと、評価の方法 | | |
| 2 | 演習 | 紙による正六面体の制作。紙について、用具の使用法 | | |
| 3 | 演習 | デッサン。鉛筆について。 | | |
| 4 | 演習 | デッサン。明暗法 | | |
| 5 | 演習 | 三原色による色彩構成 | | |
| 6 | 演習 | 三原色による色彩構成 | | |
| 7 | 演習 | 段ボール・クラフト（モデルの動物をつくる | | |
| 8 | 演習 | 段ボール・クラフト（モデルの動物をつくる | | |
| 9 | 演習 | 段ボール・クラフト（モデルの動物をつくる | | |
| 10 | 演習 | 段ボールクラフト（オリジナルの動物を制作する） | | |
| 11 | 演習 | 段ボールクラフト（オリジナルの動物を制作する） | | |
| 12 | 演習 | 段ボールクラフト（オリジナルの動物を制作する） | | |
| 13 | 演習 | お菓子の箱の模写 | | |
| 14 | 演習 | お菓子の箱の模写 | | |
| 15 | 演習 | お菓子の箱の模写 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 道具の取り扱い、メンテナンスを丁寧にする | | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 課題 100% | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ステージ／イベント | |
|---------------|---|-----------------------|-----------|--------|
| 科目名 | 舞台美術デザイン2 | | 担当教員名 | あまのしげ |
| 時間数 | 60 | 必須 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | 舞台美術工房 |
| 授業の到達目標 | 舞台美術デザインの基礎的表現力を身につけることができる。 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>1982年の活動開始より、44回にわたり個展を開催。岸和田市文化振興審議会委員、岸和田市景観審議会委員、岸和田文化事業協会理事等を歴任。大阪芸術大学、四国大学で非常勤講師を勤めた。市民講座「絵画のひみつ」を岸和田市、和泉市、豊中市、堺市などで行った。現在、毎日文化センター講師、大阪芸術大学通信教育部講師。</p> <p>舞台美術デザインの基礎的演習を行う。デザイン表現に於いて、創造力、表現力と何事かへの関心度が求められる。演習課題から基礎的表現力をつけ、さらには自主的に表現することの喜びを感じ取ってもらいたい。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 授業のあらましと、評価の方法 | | |
| 2 | 演習 | ランプシェード 立体と光の構成 | | |
| 3 | 演習 | ランプシェード 立体と光の構成 | | |
| 4 | 演習 | 色相環 色彩の多様な変化と想像 | | |
| 5 | 演習 | 色相環 色彩の多様な変化と想像 | | |
| 6 | 演習 | 物語の背景 物語を読み、その構成を立体表現 | | |
| 7 | 演習 | 物語の背景 物語を読み、その構成を立体表現 | | |
| 8 | 演習 | 物語の背景 物語を読み、その構成を立体表現 | | |
| 9 | 演習 | 物語の背景 物語を読み、その構成を立体表現 | | |
| 10 | 演習 | オブジェ 立体の表現と構成 | | |
| 11 | 演習 | オブジェ 立体の表現と構成 | | |
| 12 | 演習 | オブジェ 立体の表現と構成 | | |
| 13 | 演習 | ポートフォリオ 作品の整理とデータ化 | | |
| 14 | 演習 | ポートフォリオ 作品の整理とデータ化 | | |
| 15 | 演習 | ポートフォリオ 作品の整理とデータ化 | | |
| 準備学習 時間外学習 | 道具の取り扱い、メンテナンスを丁寧にする | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ステージ/イベント | |
|--|---------|--|--------------|--------|
| 科目名 | 照明デザイン1 | | 担当教員名 | 吉岡誠一 |
| 単位数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | L S -1 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| 様々な機材の特性を活かし、催事の内容を理解しデザイン出来るようになる。オペレーションに関する知識を習得する。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | | | |
| 様々な機材の仕込み、配置を実習し理解する。 単色、色の混ぜ方、ビーム、GOBO等に依る演出方法を習得する。 【実務経験】 関東電機株式会社（現ハートス）入社。ホテル業務、舞台業務（宝塚歌劇団、劇団四季）、ファッションショー、コンサート、ダンス、イベント等担当。2018年8月退職。8月㈱ザ・シンフォニーホール勤務。チーフエンジニア（照明業務）担当。主なプラン：市民創作函館野外劇、高岡野外音楽劇「越中万葉夢幻譚」、チャンネル他ファッションショー、アーティストコンサート、ディナーショー、ダンス（バレエ、JAZZDANCE、モダン、フラメンコ等） | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 講義 | LED SPOT MAC Aura の基本的なプログラム | | |
| 2 | 講義 | LED SPOT DL-4X の基本的なプログラム | | |
| 3 | 演習 | LED SPOT オペレーションプログラム シェイプジェネレーター他 | | |
| 4 | 演習 | 機材の仕込みに依るデザインの考え方 PART.1 | | |
| 5 | 講義 | 機材の仕込みに依るデザインの考え方 PART.2 | | |
| 6 | 講義 | BAND、音楽系のデザインの考え方 PART.1 Vo.Gt.Ba.Dr | | |
| 7 | 講義 | BAND、音楽系のデザインの考え方 PART.2 Vo.Gt.Ba.Dr | | |
| 8 | 演習 | BAND、音楽系のデザインの考え方 PART.3 弾き語り | | |
| 9 | 演習 | BAND、音楽系のデザインの考え方 PART.4 弾き語り | | |
| 10 | 演習 | DANCE系のデザインの考え方 PART.1 JAZZ.HIP HOP系 | | |
| 11 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 PART.2 モダン、クラシック系 | | |
| 12 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 PART.3 DANCE&VOCAL系 | | |
| 13 | 演習 | 「明日への扉」を通じて照明の仕込みから本番、撤収までの作業を理解することが出来る | | |
| 14 | 演習 | 「明日への扉」を通じて照明の仕込みから本番、撤収までの作業を理解することが出来る | | |
| 15 | 講義 | 答案返却、解答解説 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 教材を読んだうえで毎授業自分で目標、テーマを持って授業に参加しましょう。 | | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1) 筆記試験 100% | |
| 教材 | 教科書 | 舞台・テレビジョン照明<基礎編> | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ステージ/イベント | |
|---------------|--|------------------|-----------|---------------|
| 科目名 | 照明デザイン2 | | 担当教員名 | 吉岡誠一 |
| 単位数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | L S-1 |
| 授業の到達目標 | <p>様々な催し物に対応する機材の仕込み、配置を実習し理解する。</p> <p>音源、映像等を利用し単色、色の混ぜ方、ビーム、GOBO等に依る演出方法を理解しプランを考える。</p> <p>プランに基づいた調光、PINSPOT等のオペレーション技術を習得する。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>様々な機材の仕込み、配置を実習し理解する。</p> <p>単色、色の混ぜ方、ビーム、GOBO等に依る演出方法を習得する。</p> <p>プロフィール：関東電機株式会社（現ハートス）入社。ホテル業務、舞台業務（宝塚歌劇団、劇団四季）、ファッションショー、コンサート、ダンス、イベント等担当。</p> <p>2018年8月退職。8月㈱ザ・シンフォニーホール勤務。チーフエンジニア（照明業務）担当。</p> <p>主なプラン：市民創作図書館野外劇、高岡野外音楽劇「越中万葉夢幻譚」、チャンネル他ファッションショー、アーティストコンサート、ディナーショー、ダンス（バレエ、JAZZDANCE、モダン、フラメンコ等）</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.1 | DANCE&VOCAL系 |
| 2 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.1-2 | DANCE&VOCAL系 |
| 3 | 演習 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.1-3 | DANCE&VOCAL系 |
| 4 | 演習 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.1-4 | DANCE&VOCAL系 |
| 5 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.2-1 | アイドル系 |
| 6 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.2-2 | アイドル系 |
| 7 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.2-3 | アイドル系 |
| 8 | 演習 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.2-4 | アイドル系 |
| 9 | 演習 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.3-1 | JAZZ.HIP HOP系 |
| 10 | 演習 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.3-2 | JAZZ.HIP HOP系 |
| 11 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.4-1 | モダン、クラシック系 |
| 12 | 講義 | DANCE系のデザインの考え方 | PART.4-2 | モダン、クラシック系 |
| 13 | 演習 | DANCE系のデザイン | ステージ発表 | |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) | | |
| 15 | 講義 | (ワークショップ) | | |
| 準備学習 時間外学習 | 教材を読んだうえで毎授業自分で目標、テーマを持って授業に参加しましょう。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1) 筆記試験 100% | | |
| 教材 | 教科書 | 舞台・テレビジョン照明<基礎編> | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ステージ/イベント | |
|---------------|--|--|-----------|--------|
| 科目名 | PRO TOOLS 1 | | 担当教員名 | 福岡直子 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | 501教室 |
| 授業の到達目標 | Pro Toolsの基本操作をもとに、周辺機器のセットアップ、トラブルシューティング、データ管理のスキルアップ | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、ファイル管理（マスターデータ、納品方法など）システム構築の概要を習得。</p> <p>実務経験：2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | ファイル管理（階層構造の再確認）。マスター（オリジナル）データとバックアップデータについて学ぶ。 | | |
| 2 | 演習 | ハードウェアやI/O設定（仕組み、新規作成、設定のインポート/エクスポート）を学ぶ。 | | |
| 3 | 演習 | クロックリファレンスとクロックソース、同期を学ぶ。 | | |
| 4 | 演習 | 初期設定（プラグインや各種設定）の構築を研究。 | | |
| 5 | 演習 | DAW全般のトラブルシューティングを学ぶ 1 | | |
| 6 | 演習 | Pro Tools/エフェクト（Plug-in）、編集、実践 1 | | |
| 7 | 演習 | DAW全般のトラブルシューティングを学ぶ 2 | | |
| 8 | 演習 | Pro Tools/エフェクト（Plug-in）、編集、実践 2 | | |
| 9 | 演習 | DAW全般のトラブルシューティングを学ぶ 3 | | |
| 10 | 演習 | Pro Tools/エフェクト（Plug-in）、編集、実践 3 | | |
| 11 | 演習 | DAW全般のトラブルシューティングを学ぶ 4 | | |
| 12 | 演習 | Pro Tools/エフェクト（Plug-in）、編集、実践 4 | | |
| 13 | 試験 | 実技テスト、解答解説 | | |
| 14 | 試験 | 筆記テスト、解答解説 | | |
| 15 | 演習 | 後期総復習 | | |
| 準備学習 時間外学習 | 授業や個人的にPro Toolsを使用して疑問に思ったことをメモ。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1)実技試験 50% 2)筆記試験 50% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | 音響設備マニュアルなど☑ ☑ | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ステージ/イベント | |
|---------------|--|--|-----------|--------|
| 科目名 | PRO TOOLS 2 | | 担当教員名 | 福岡直子 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | 501教室 |
| 授業の到達目標 | Pro Toolsの再生・編集の基本を習得、コンピューターの基礎知識の習得 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。</p> <p>【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | DAW (Pro Tools、コンピューター、周辺機器)とは?、実習室の信号の流れについて学ぶ。 | | |
| 2 | 演習 | Pro Toolsのファイル(セッション)を新規作成、各種設定、保存、開く。 | | |
| 3 | 演習 | 「ミックス」「編集」画面構成を学ぶ。音声データを読み込む。 | | |
| 4 | 演習 | 「編集」実践1 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。 | | |
| 5 | 演習 | 「編集」実践2 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。 | | |
| 6 | 演習 | 海外研修 | | |
| 7 | 演習 | 「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面オートメーションを学ぶ。 | | |
| 8 | 演習 | 「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面オートメーションを学ぶ。 | | |
| 9 | 演習 | 音声ファイル形式(応用)。セッションの保存(応用)を学ぶ。音声データの書き出し(ファイルエクスポート、バウンス) | | |
| 10 | 演習 | 課題制作 | | |
| 11 | 演習 | 課題制作 | | |
| 12 | 演習 | 課題提出 | | |
| 13 | 試験 | 後期総復習 | | |
| 14 | 試験 | (ワークショップ) | | |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) | | |
| 準備学習 時間外学習 | 毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1)実技試験 50% 2)筆記試験 50% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | 音響設備マニュアルなど☑ ☑ | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | エンジニアリング | |
|---------------|---|--|----------|--------|
| 科目名 | Pro Tools Adv.1 | | 担当教員名 | 福岡 直子 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 501 |
| 授業の到達目標 | <p>2年生:レコーディングなどの現場で対応できるスキルを習得。</p> <p>3年生:Pro Tools システムセットアップの構築。メンテナンス、トラブルシューティング。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、ファイル管理(マスターデータ、納品方法など)システム構築の概要を習得。</p> <p>【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | ファイル管理(階層構造の再確認)。マスター(オリジナル)データとバックアップデータについて学ぶ。 | | |
| 2 | 演習 | ハードウェアやI/O設定(仕組み、新規作成、設定のインポート/エクスポート)を学ぶ。 | | |
| 3 | 演習 | クロックリファレンスとクロックソース、同期の研究。 | | |
| 4 | 演習 | 初期設定(プラグインや各種設定)の構築を研究。 | | |
| 5 | 演習 | DAW全般のトラブルシューティングを学ぶ。 | | |
| 6 | 演習 | Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。 | | |
| 7 | 演習 | Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。 | | |
| 8 | 演習 | Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。 | | |
| 9 | 演習 | Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。 | | |
| 10 | 演習 | Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。 | | |
| 11 | 演習 | 実技テスト、解答解説 | | |
| 12 | 演習 | 筆記テスト、解答解説 | | |
| 13 | 演習 | 前期総復習 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 授業や個人制作時にPro Toolsを使用して疑問に思ったことをメモ。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1)実技試験 50% 2)筆記試験 50% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | 音響設備マニュアルなど | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | エンジニアリング | |
|---------------|---|--------------------------------|----------|--------|
| 科目名 | Pro Tools Adv.2 | | 担当教員名 | 福岡 直子 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 501 |
| 授業の到達目標 | <p>2年生：レコーディングなどの現場で対応できるスキルを習得。</p> <p>3年生：Pro Tools システムセットアップの構築。メンテナンス、トラブルシューティング。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、ファイル管理（マスターデータ、納品方法など）システム構築の概要を習得。</p> <p>【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | Pro Tools 応用 (1) | | |
| 2 | 演習 | Pro Tools 応用 (2) | | |
| 3 | 演習 | Pro Tools 応用 (3) | | |
| 4 | 演習 | Pro Tools 応用 (4) | | |
| 5 | 演習 | Pro Tools 応用 (5) | | |
| 6 | 演習 | 基礎復習 / 応用 | | |
| 7 | 演習 | 楽曲における編集について | | |
| 8 | 演習 | 制作時に於ける、的確な操作の判断について | | |
| 9 | 演習 | 制作時に於ける、的確な操作 | | |
| 10 | 演習 | ファイル管理 | | |
| 11 | 演習 | Pro ToolsとDAW (応用) | | |
| 12 | 演習 | Pro Tools/エフェクト (Plug-in) (応用) | | |
| 13 | 演習 | Pro Tools/編集 (応用1) | | |
| 14 | 演習 | Pro Tools/ファイル管理 (応用) | | |
| 15 | 演習 | まとめ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 授業や個人制作時にPro Toolsを使用して疑問に思ったことをメモ。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1)実技試験 50% 2)筆記試験 50% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | 音響設備マニュアルなど | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | エンジニアリング | |
|--|--|--------------------------------|----------|---------|
| 科目名 | レコーディングセッション1 | | 担当教員名 | 吉川 豊 |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 301・403 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| <p>現場での「動き」「考えかた」「コミュニケーション力」。</p> <p>基本となるエンジニア技術を活かし、応用し、制作者&クライアントの求める作品を作り上げるスキル。</p> <p>スタジオ業務に就いた際に重要とされる上記2点を到達目標とする。</p> | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>1年生で習得した基本となる技術を基に、よりプロのRECスタジオに近い実践授業を行う。アレンジ上での楽器の使い方を理解し、どう聴かせるか？聴かせ方。立体的な音の作り方。protocolsが使われるようになり、エンジニアはより音楽的要素が求められるようになった。それをスピーディーに表現するためのprotocolsの使い方。相手が何を求めているかを理解する力。実践を通じて上記をテーマに授業を進行。</p> <p>【実務経験】専門学校を卒業後、大手レコーディングスタジオ2社を経た後、制作事務所勤務。現在StudioMechに籍を置く。31年間ジャンルを問わず様々なアーティストのレコーディングに参加。</p> | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 昨年度の復習・先輩達の動きを思い出して動いてみよう | | |
| 2 | 演習 | コミュニケーション力。望んでる音が何か？自分んの意見を伝える | | |
| 3 | 演習 | コミュニケーション力。望んでる音が何か？自分んの意見を伝える | | |
| 4 | 演習 | 音の分かる耳を作る。マイキングを工夫しよう | | |
| 5 | 演習 | 音の分かる耳を作る。マイキングを工夫しよう | | |
| 6 | 演習 | 聴かせるバランス・望んでるサウンドの聴かせ方 | | |
| 7 | 演習 | 聴かせるバランス・望んでるサウンドの聴かせ方 | | |
| 8 | 演習 | アプローチのしかた・自分の感じた音の表現・聴かせ方 | | |
| 9 | 演習 | アプローチのしかた・自分の感じた音の表現・聴かせ方 | | |
| 10 | 演習 | sound作り・アウトボードを使って個性を出す | | |
| 11 | 演習 | sound作り・アウトボードを使って個性を出す | | |
| 12 | 演習 | 制作・エンジニアとミュージシャンでレコーディング組み立てる | | |
| 13 | 演習 | 制作・エンジニアとミュージシャンでレコーディング組み立てる | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 常に空いてる時間はprotocolsを触る。 基本MIXは宿題にするので時間をかけやりたい事ができるように自主学習を。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1)実技試験(100%) | | |
| 教材 | 教科書 | 普段聴いているCD SSL 取説 | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | エンジニアリング | |
|---------|--|--|-------------|---------|
| 科目名 | レコーディングセッション2 | 担当教員名 | 吉川 豊 | |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 4年次 後期 | |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 301・403 |
| 授業の到達目標 | <p>現場での「動き」「考えかた」「コミュニケーション力」。</p> <p>基本となるエンジニア技術を活かし、応用し、制作者&クライアントの求める作品を作り上げるスキル。</p> <p>スタジオ業務に就いた際に重要とされる上記2点を到達目標とする。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>1年生で習得した基本となる技術を基に、よりプロのRECスタジオに近い実践授業を行う。</p> <p>アレンジ上での楽器の使い方を理解し、どう聴かせるか？聴かせ方。立体的な音の作り方。</p> <p>protoolsが使われるようになり、エンジニアはより音楽的要素が求められるようになった。それをスピーディーに表現するためのprotoolsの使い方。相手が何を求めているかを理解する力。実践を通じて上記をテーマに授業を進行。</p> <p>【実務経験】</p> <p>専門学校を卒業後、大手レコーディングスタジオ2社を経た後、制作事務所勤務。現在StudioMechに籍を置く。</p> <p>31年間ジャンルを問わず様々なアーティストのレコーディングに参加。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | リズムREC (pre pro) 完成に近い音にするためのマイキングやエフェクターの使い方 | | |
| 2 | 演習 | リズムREC (本録) preproでやった事をより精度を上げる。エンジニアから提案の仕方 | | |
| 3 | 演習 | ダビング (ギターetc)各楽器のマイキング。聴かせ方。完成に近いモニターバランス | | |
| 4 | 演習 | ダビング (vocal) 録音レベルの取り方。ダイナミックレンジをしっかりとる | | |
| 5 | 演習 | リズムREC (pre pro) ミュージシャンとのコミュニケーションをとり、求めるサウンドに近づける | | |
| 6 | 演習 | リズムREC (pre pro) ダビング時の事を考慮してのトラッキング方法 | | |
| 7 | 演習 | ダビング (ギターetc)楽器、アンプの特性を理解し、MIX想定でのトラッキング | | |
| 8 | 演習 | ダビング (vocal) マイキング。声に適したマイク選び。コンプのかけ方 | | |
| 9 | 演習 | MIX マスターレベルの基本的な取り方。エフェクトの処理。 | | |
| 10 | 演習 | リズムREC (prepro&本録) 生徒のみで録音。コミュニケーションをとり何をしたいのか理解する | | |
| 11 | 演習 | ダビング (ギターetc、vocal) 生徒のみで録音。スケジュール通りに終われる為に何を考えどう行動するか | | |
| 12 | 演習 | MIX 音圧の取り方。MIXにおけるダイナミクスの取り方 | | |
| 13 | 演習 | 1日で完パケまで終える。全体の流れを把握し自分がどう行動するべきか | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 | 常に空いてる時間はprotoolsを触る。 | | | |
| 時間外学習 | 基本MIXは宿題にするので時間をかけやりたい事ができるように自主学習を。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1)実技試験 (100%) | | |
| 教材 | 教科書 | 普段聴いているCD SSL 取説 | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | 音楽ビジネス | |
|---|--|--|--------|---------------|
| 科目名 | イベントスタッフワーク1 | | 担当教員名 | 深川・山之口・山田 |
| 単位数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | 701・702・703教室 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| プロジェクト課題に必要な知識を全員で学び、その知識を実施へつなげる力を養います。定期的な報告会では、内容をまとめ、発表する。その発表を理解し、まとめ議事録にする力を養います。また、横の繋がりを意識し、各プロジェクトの動きを理解、学び、互いに協力、切磋琢磨できるように定期的な報告会を行います。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する頭の約30～45分程度を座学及び報告会を行います。3つのプロジェクトチーム全員で実務に必要な知識を身につけます。 ①WONDER!プロジェクト②SO.ONプロジェクト③イベントプロジェクトの各プロジェクトに分かれ、各企業様からの課題に取り組みます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 深川：プロダクション業務(マネジメント、CD制作等)、レコード会社セールス・プロモーター、コンサートプロモーター。山之口：プロダクションでのマネージメント、大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事。山田：イベント制作会社にて企画、制作、運営、営業を約7年従事。現在はフリーイベントディレクターとして活動中。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | イベントスタッフワークの授業内容に関して | | |
| 2 | 演習 | 情報の取り扱い方について | | |
| 3 | 演習 | スケジュールについて（スケジュールの立て方における基礎知識を学びます） | | |
| 4 | 演習 | 実務書類について（報告のまとめ方、議事録のまとめ方について学びます） | | |
| 5 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 6 | 演習 | セルフプロデュースについて（自分の見せ方、見られ方を考えます） | | |
| 7 | 演習 | SNSについて（仕事におけるSNSの活用法を学びます） | | |
| 8 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 9 | 演習 | ブッキングについて（イベント、ライブへの出演依頼について理解します） | | |
| 10 | 演習 | マネジメントについて（マネジメントの基礎知識を学びます） | | |
| 11 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 12 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 13 | 演習 | ※各プロジェクト、座学の制作工程により要調整。復習授業などを取り入れたいと考えます。 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 座学で学んだ内容を、各プロジェクトに分かれたときに実務で活用できるように不明点は解消しておくこと。また報告会前には、活動内容を理解し、まとめることができるようにチーム内でミーティングを行っておくこと。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1. 実技100% | | |
| 教材 | 教科書 | 適宜、必要資料を配布します。 | | |
| | 参考書 | // | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | 音楽ビジネス | |
|--|--|--|--------|---------------|
| 科目名 | イベントスタッフワーク2 | | 担当教員名 | 深川・山之口・山田 |
| 単位数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | 701・702・703教室 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| プロジェクト課題に必要な知識を全員で学び、その知識を実施へつなげる力を養います。定期的な報告会では、現状を把握、その内容をまとめ、報告。その報告をまとめ議事録を作成できるように目指します。また、横の繋がりを意識し、各プロジェクトの動きを理解、学び、互いに協力、実際の業界での繋がりや関係性を理解することを目指します。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| 頭の約30～45分程度を座学及び報告会を行います。3つのプロジェクトチーム全員で実務に必要な知識を身につけます。 ①WONDER！プロジェクト②S.O.O.Nプロジェクト③イベントプロジェクトの各プロジェクトに分かれ、各企業様からの課題に取り組みます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 深川：プロダクション業務(マネジメント、CD制作等)、レコード会社セールス・プロモーター、コンサートプロモーター。山之口：プロダクションでのマネージメント、大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事。山田：イベント制作会社にて企画、制作、運営、営業を約7年従事。現在はフリーイベントディレクターとして活動中。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 2 | 演習 | 私たちが歩んできた道～それぞれの仕事紹介～ | | |
| 3 | 演習 | 私たちが歩んできた道～プロデューサーの仕事～ | | |
| 4 | 演習 | 議事録を取るための講義②（情報共有の大切さと報告の仕方など） | | |
| 5 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 6 | 演習 | プロモーション戦略 | | |
| 7 | 演習 | 配信① | | |
| 8 | 演習 | 配信② | | |
| 9 | 演習 | レコーディングについて | | |
| 10 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 11 | 演習 | 音楽出版について | | |
| 12 | 演習 | 報告会（各プロジェクトより活動の報告） | | |
| 13 | 演習 | ※各プロジェクト、座学の制作工程により要調整。復習授業などを取り入れたいと考えます。 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 座学で学んだ内容を、各プロジェクトに分かれたときに実務で活用できるように不明点は解消しておくこと。また報告会前には、活動内容を理解し、まとめることができるようにチーム内でミーティングを行っておくこと。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1. 実技 100% | | |
| 教材 | 教科書 | 適宜、必要資料を配布します。 | | |
| | 参考書 | // | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | 音楽ビジネス | |
|---------------|--|---|-------|
| 科目名 | MOS対策講座 | 担当教員名 | 武田 祥子 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 |
| 授業の到達目標 | Microsoft社が認定するExcelの機能や特性を学び、社会人としての必要なOfficeアプリケーションのスキル・知識を身につける。 | | |
| 授業の内容 | 就職に有利な「Microsoft Office Specialist」(就職時の応募書類等、資格欄に記入可能)を受験し、受験者100%合格を目標に、資格取得を目指す。 【実務経験】 MCTトレーナーとして、大阪学院大学・大阪樟蔭女子大学・大阪商業大学・大阪芸術大学・阪南大学・CONG・NHKカルチャースクール・ECCコンピュータ学院・OSM・ECO等のMOS講座を数多く担当 | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | ワークシートやブックの作成と管理 | |
| 2 | 演習 | ワークシートやブックの作成と管理 | |
| 3 | 演習 | セルやセル範囲のデータの管理 | |
| 4 | 演習 | テーブルの作成 | |
| 5 | 演習 | 数式や関数を使用した演算の実行 | |
| 6 | 演習 | グラフやオブジェクトの作成 | |
| 7 | 演習 | 模擬試験1 | |
| 8 | 演習 | 模擬試験2 | |
| 9 | 演習 | 模擬試験3 | |
| 10 | 演習 | 模擬試験4 | |
| 11 | 演習 | 模擬試験5(模擬試験解説) | |
| 12 | 演習 | 模擬試験(試験直前対策) | |
| 13 | 演習 | MOS受験 | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | |
| 準備学習 時間外学習 | 各回翌週以降の授業と連携をしているため、苦手な箇所や、欠席した際には、その内容を復習してから、次回出席のこと。模擬試験は、自習時間を有効活用し、回数をこなすこと。 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | MOS試験結果・授業態度・出席率・模擬試験の成績を、総合的に勘案する。 | |
| 教材 | 教科書 | Microsoft Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FOM出版) | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | ESL | |
|---------------|---|------------|-------|--------|
| 科目名 | 専門留学Ⅱ | | 担当教員名 | |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | |
| 授業の到達目標 | ブロードウェイダンスセンターもしくはペリダンスセンターにて3ヶ月から1年間の海外専門留学を通して、現地での専門技術、コミュニケーション技術、国際感覚を身につける。 | | | |
| 授業の内容 | コレクティブミュージックスクールもしくはエレクトロニックミュージックコレクティブにて3ヶ月から1年間の海外専門留学。 | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 専門留学 | | |
| 2 | 演習 | 専門留学 | | |
| 3 | 演習 | 専門留学 | | |
| 4 | 演習 | 専門留学 | | |
| 5 | 演習 | 専門留学 | | |
| 6 | 演習 | 専門留学 | | |
| 7 | 演習 | 専門留学 | | |
| 8 | 演習 | 専門留学 | | |
| 9 | 演習 | 専門留学 | | |
| 10 | 演習 | 専門留学 | | |
| 11 | 演習 | 専門留学 | | |
| 12 | 演習 | 専門留学 | | |
| 13 | 演習 | 専門留学 | | |
| 14 | 演習 | 専門留学 | | |
| 15 | 演習 | 専門留学 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1. 課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | パフォーマンスプロジェクト | | |
|---|---|---|-------------|--------|
| 科目名 | コーラスプロジェクト2 | 担当教員名 | 勝山 紀子/峯口 弥生 | |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 必修選択 | 教室 | EN431 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| <p>1: ショークワイア用にアレンジされた楽譜を使用することで音楽理論やソルフェージュ、音楽用語などの総合的な活用を理解実践する 2: 学生リーダー制を導入することで自身の得意分野を生かした相互協力の概念、調整能力を養いエンターテインメント業界で求められるコミュニケーションを実践する 3: それぞれの能力に応じた役回りでベストなパフォーマンスを行う 4: 外部出演の依頼に応える事の出来る音楽的な基礎体力を養う 5: 全ての過程を通して練習の重要性を理解し、全員が確かな成功体験を得る</p> | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| <p>実際の現場経験や業務内容を基に、現場で必要になるリアルなノウハウを伝えていきます。現場で必要になる専門的な音楽知識、技術を具体的に教材に盛り込むために当講義用にアレンジ（編曲）されたボーカル+コーラスの譜面を使用し、制作過程も含めて理解できるよう促します。それぞれに役回りを持たせ協力しながら練習や準備を行う中で、各学生の特徴を活かし全員が輝けるパフォーマンスを目指します。発表時に全員が達成感を得られるよう、実際の現場における本番までの過程を踏襲しながら学んでいきます。</p> <p>【実務経験】勝山先生：大阪芸術大学演奏学科声楽専攻卒業。在学中から、プロとしてスタジオミュージシャンの活動を開始。その後音楽制作に転向、現在、アーティストの歌唱指導（育成）やボーカルコーディネーター、コーラスアレンジなどで活動。東京をベースに「紅白歌合戦」「うたコン」（以上NHK）など音楽コーディネーターとして活動中。</p> | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | ショークワイア概観 履修学生のレベルチェック | | |
| 2 | 演習 | 課題曲の配布 パート分け リーダー決めと練習方針についてディスカッション | | |
| 3 | 演習 | 発声指導 パートリーダー決め パートミーティング 課題曲音取り練習 | | |
| 4 | 演習 | 発声練習 学園祭楽曲練習 学園祭演出内容全体ディスカッション | | |
| 5 | 演習 | 発声練習 学園祭楽曲練習 学園祭演出内容全体ディスカッション | | |
| 6 | 演習 | 学園祭楽曲練習 学園祭詳細ミーティング | | |
| 7 | 演習 | 学園祭 本番に向けてのリハーサル | | |
| 8 | 演習 | 学園祭反省会+今後の練習計画についてディスカッション 課題曲の配布 | | |
| 9 | 演習 | 発声練習 課題曲音取り練習 アンサンブル練習 | | |
| 10 | 演習 | 練習状況についてミーティング 発声練習 課題曲アンサンブル練習 | | |
| 11 | 演習 | 発声練習 課題曲アンサンブル練習 ステージングの検討 | | |
| 12 | 演習 | 発声練習 課題曲振り渡し→アンサンブル練習 | | |
| 13 | 演習 | 発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 自主練習の計画と実践、参加状況管理 リーダー主催ミーティングと講師への報告、ライブラリアン（楽譜音源管理） 衣装管理、次回授業の準備物周知連絡ほか | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技 100% | | |
| 教材 | 教科書 | 新規アレンジショークワイア用楽譜と仮録カラオケ 市販ショークワイア用楽譜と専用カラオケのセット | | |
| | 参考書 | [子供のためのソルフェージュ]（音楽之友社）全巻 [全訳コールユングエン]（全音楽譜出版社）1～3巻 ※いずれも抜粋使用 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | コンポジションプロジェクト | |
|---|-------|--|-----------|
| 科目名 | 楽曲提供4 | 担当教員名 | 木下 智哉 |
| 時間数 | 120 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 606 |
| 授業の到達目標 | | | |
| ProToolsの基本操作の習得。 マイクについての基礎知識の習得。 MIXダウンにおける手法の基礎知識の習得。 データ管理技術の向上。 Voディレクションを通しての制作過程の習得。 コミュニケーション能力向上。 シンセサイザーの基礎知識の習得。 | | | |
| 授業の内容 | | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | |
| 作曲、編曲をした後の段階、録音、録音時におけるディレクション、Audio編集、ミックスダウンといったオリジナル楽曲作成の為の行程を段階にわけ、実践し覚える。 Vo科とのコラボレーションを行い、オリジナル楽曲を制作する中で、スケジューリングやディレクションといったプロデュース能力の向上を計る。 【実務経験】 作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアーティストの音楽制作を手がける。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | VoRECディレクション用のデータ作成／RECのシミュレーション | |
| 2 | 演習 | エントリーシート回収／Voiceサンプル試聴／チーム分け／打ち合わせ | |
| 3 | 演習 | VoREC&ディレクション.1 (レコーディング) | |
| 4 | 演習 | VoREC&ディレクション.2 (レコーディング) | |
| 5 | 演習 | VoREC&ディレクション.3 (レコーディング) | |
| 6 | 演習 | Mix基礎.1 /Mix概要/EQ基礎 | |
| 7 | 演習 | Mix基礎.2 /Mix概要/EQ基礎 | |
| 8 | 演習 | Mix基礎.3 /Mix概要/EQ基礎 | |
| 9 | 演習 | Mix実践 /素材を使っでのMixダウン (提出) | |
| 10 | 演習 | Mix応用 /様々なMix技集 | |
| 11 | 演習 | シンセサイザー基礎/シンセの歴史/サンプリングデータ作成 | |
| 12 | 演習 | サンプリングデータからBatteryでのソフトシンセデータ作成 | |
| 13 | 演習 | Protools基本操作チェック/結線チェック/マイク録音一連チェック | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | |
| 準備学習 時間外学習 | | 課題制作用に渡されたデータを整理し、授業外の時間で積極的に復習に使用する | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 3. 課題100% |
| 教材 | 教科書 | 授業時に配布するプリント各種。 | |
| | 参考書 | なし | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | ステージ/イベントプロジェクト | | |
|---------------|---|--|--------|--------------------|
| 科目名 | 配信番組制作1 | 担当教員名 | 藤田祐司 | |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | |
| 曜日・時限 | | 教室 | 4年次 後期 | |
| 授業の到達目標 | メディアセンター・ワン・スタジオ | | | |
| 授業の内容 | <p>・企画書作成の基礎知識と作成能力の育成。プレゼンテーションテクニックの習得</p> <p>・Web配信番組制作を通して、TV番組の組み立て方と基礎知識を習得</p> <p>・カメラワーク、編集テクニックなど機材の基本操作術と、編集ソフト等の基礎的な使用方法の習得</p> <p>・チームでの制作実習を通して、各役割の仕事内容とチームプレイの重要性を習得</p> <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ニッポン放送からスカパー局長を経て、番組・音楽制作の現場30年以上の実践の中で体感してきたこの業界は、近年、大きな変革期を向かえています。特に今後増々需要が高まるWeb配信はこの業界の大きなアイテムです。この授業では実際に番組制作現場で使われている映像中継システムを使い、学生たちの企画する番組を全世界に向けて配信します。発想をどのように企画し具現化していくか、そしてそれらを技術力でどう表現するか…。多くの人々に感動を届けるTVマンの世界を理論と感性で実践し、チームでのコミュニケーション能力を身に付けながら、これからの番組制作現場で必要とされる人材の育成を目指します。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 1年間の授業内容と目標 / 自己紹介 / TV番組制作の世界 (各役割紹介) | | |
| 2 | 演習 | 発想を具現化し、実現するためのツール【企画書の作成基礎】 | | |
| 3 | 演習 | 実際の生放送の番組制作現場を見学 【役割とチームプレイ】 | | |
| 4 | 演習 | 機材に触れよう1 (放送カメラを使って撮影の基礎を学ぶ) | | |
| 5 | 演習 | 機材に触れよう2 (編集機材を使って編集の基礎を学ぶ) | | |
| 6 | 演習 | ショートムービーの制作に挑戦! (チーム分けと「企画書」の作成) | | |
| 7 | 演習 | ↓ | | |
| 8 | 演習 | | | (企画書に基づいた「撮影」) |
| 9 | 演習 | | | (「編集」によって作品の骨格を完成) |
| 10 | 演習 | (作品チェックと修正編集で作品完成) | | |
| 11 | 演習 | ↓ | | |
| 12 | 演習 | (完成作品の「試写」により、問題点の整理と心構えの育成) | | |
| 13 | 演習 | 番組制作の役割と適合性を知る (ディレクター、カメラマン、編集マンの役割) | | |
| 14 | 演習 | 放送局の現場をユニークに描いたドラマの試写 | | |
| 15 | 演習 | 放送局の現場をユニークに描いたドラマの試写 | | |
| 準備学習 時間外学習 | 日常の中で「サプライズ」と「感動」の仕掛けを想像し、番組制作において最重要である「演出」のテクニックを考察すること。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1) 実技・チームワークの態度 50% 2) 制作課題 50% | | |
| 教材 | 教科書 | 実際にTV番組で使用した企画書・台本 | | |
| | 参考書 | 実際に放送されたTV番組 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | エンジニアリングプロジェクト | | |
|--|---|---|------------|---------|
| 科目名 | プロダクションワークショップ2 | 担当教員名 | 小林 哲/小松 寛史 | |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | 301・403 |
| 授業の到達目標 | | | | |
| 1.現場レベルで十分な対応を行えるディレクターの知識の習得、育成 2.どの分野、どの現場でも必要なコミュニケーションの重要性の確認・確立。 3.タイムスケジュール管理等の能力育成。 | | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | | | |
| レコーディングスタジオでの作業を通じ、コミュニケーション、ビジネスマナー、サウンドメイク技術を学習する。 | | | | |
| □レコーディング作業に向けての準備 | | | | |
| 【実務経験】 小松 寛史：株式会社テイクセブン所属。音源制作全般における業務を担当。作編曲をメインに企業へのCM・BGM・音効提供、アーティストへの楽曲提供、レコーディング業務を担当。倅田來未「Go Way!」収録アルバムがオリコン1位に。小林 哲：作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師 | | | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 本授業における実作業の確認&説明☑サイズ譜の準備・ディレクション用歌詞作成の手順など) | | |
| 2 | 演習 | 正しいマイクの立て方・マイクの特性の説明 | | |
| 3 | 演習 | ProToolsにおいての操作方法・ミックス方法の説明 | | |
| 4 | 演習 | Cubaseにおいての操作方法・ミックス方法の説明 | | |
| 5 | 演習 | 学生制作楽曲の技術的フォロー、アドバイス | | |
| 6 | 演習 | 講師の先生方から頂いたアドバイスを元に補正、長所向上をめざす | | |
| 7 | 演習 | 聴きやすいボーカルミックス、プレゼン用の音源提案 | | |
| 8 | 演習 | 正しい音圧のあり方等 | | |
| 9 | 演習 | マスタリングが全てではなく、☑ずは「ミックス・素材からが重要」な点を念頭にアドバイス | | |
| 10 | 演習 | 楽曲によっては、ドラムの録音、☑演奏に差し替える等、音の質感向上を目指す。 | | |
| 11 | 演習 | 前期・後期の反省点、取り組むべき点を精査し☑オーカスを合わせたクオリティアップ・アドバイス | | |
| 12 | 演習 | ディレクションにおける「コミュニケーション」の重要性を再確認。 | | |
| 13 | 演習 | 1年間を通じて得た情報・技術を☑度見直し、フォロー&アドバイス | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | レコーディングで使用する機材（マイク・ケーブル等）のある程度の予備知識、エンジニアコースの学生とのやり取りを円滑にする為のリファレンス楽曲の準備。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1) 課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | ミュージックビジネスプロジェクト | | |
|---------------|---|-------------------------------------|------|--------|
| 科目名 | TACプロジェクト4 | 担当教員名 | 堤福男 | |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 707 | |
| 授業の到達目標 | 産学連携で企業様とイベントなどに取り組み、コミュニケーション能力や、外部の人との関係性を構築させることで、学生の目標である音楽業界への就職に一人でも多く繋げることを目標とする。 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>【1コマ目】産学連携でお世話になっているメディアプルポさんのイレギュラーで入ってくるテレビ番組収録や公開ライブの現場に参加するための講義.及び各イベント企画 【2コマ目】後期の目標であるイベント企画.及びマネジメントの課題に取り組みます。</p> <p>【実務経験】マネージャー業をはじめ、イベントのプロモーション、メディア制作等にも携わる。 現在はそれらの業務に加え、後進の育成にもあたる。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 制作したフライヤーなど、販促物の配布を行う宣伝活動を実施 | | |
| 2 | 演習 | イベントに必要な資料（タイムテーブル、セット図など）の作成をレクチャー | | |
| 3 | 演習 | 10月25日のイベントの準備を実施 | | |
| 4 | 演習 | 10月25日のイベントの運営 | | |
| 5 | 演習 | 10月25日のイベントの振り返り・総括 | | |
| 6 | 演習 | 10月25日のイベントに関する学生によるプレゼンテーション | | |
| 7 | 演習 | テレビ収録現場の準備やレクチャー | | |
| 8 | 演習 | テレビ収録現場でのワークショップ | | |
| 9 | 演習 | テレビ収録現場に関する振り返り | | |
| 10 | 演習 | マネジメントについての知識を学ぶためのレクチャー | | |
| 11 | 演習 | 事務所所属アーティストのマネジメント実践（レコーディング） | | |
| 12 | 演習 | 事務所所属アーティストのマネジメント実践（ライブ準備・制作） | | |
| 13 | 演習 | 事務所所属アーティストのマネジメント実践（ライブ運営） | | |
| 14 | 演習 | 各マネジメントチームによる報告会 | | |
| 15 | 演習 | 総括 | | |
| 準備学習 時間外学習 | イレギュラーで入ってくるテレビ収録やイベント現場対応、ならびに企業様への対応に向けた準備を日々おこなっていく | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1.実技100% | | |
| 教材 | 教科書 | 適時、必要資料を配布します。 | | |
| | 参考書 | 適時、必要資料を配布します。 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | メディアビジネスプロジェクト | |
|---|--|----------------------------------|--------|
| 科目名 | TV照明2 | 担当教員名 | 中西正人 |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 4年次 後期 |
| 授業の到達目標 | シューティングステージ | | |
| 前期は、テレビ照明の基礎を学び、舞台照明との違いを明確に理解する。目指す方向性を自分の中に捉えるように成長し、現場での理解力とスタッフのコミュニケーションの向上。 | | | |
| 授業の内容 | 教科書を用いた講義と、カメラ・モニター・照明機材を扱い演習・テレビ局の見学 | | |
| 【実務経験】 | | | |
| 株式会社キレイ代表。サンテレビでの勤務を経て独立。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 番組企画制1の振り返りと番組企画制2の授業内容について | |
| 2 | 演習 | 基本照明の実習 | |
| 3 | 演習 | スタジオ機構・設備、安全対策 | |
| 4 | 演習 | 音楽照明Ⅰ | |
| 5 | 演習 | 讀賣テレビ局の見学 | |
| 6 | 演習 | 対談・ワイドショー照明 | |
| 7 | 演習 | ロケーション照明 室内編 | |
| 8 | 演習 | ドラマ照明 | |
| 9 | 演習 | CM照明 | |
| 10 | 演習 | ロケーション照明 屋外編 | |
| 11 | 演習 | ロケーション照明 屋外編 | |
| 12 | 演習 | 音楽照明Ⅱ | |
| 13 | 演習 | ロケーション照明 屋外・屋内の対応 | |
| 14 | 演習 | ロケーション照明 屋外・屋内の対応 | |
| 15 | 演習 | 後期まとめ・後期期末試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | 舞台・テレビジョン照明 基礎編 テレビスタジオの機構と スタジオ設備・テレビ照明の特徴と技法・テレビにおける照明の仕事 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 試験60%・授業態度20%・出席率20% | |
| 教材 | 教科書 | ・舞台・テレビジョン照明[基礎編][技能編][知識編],映像照明 | |
| | 参考書 | 日本照明家協会雑誌・(株)キレイの現場写真 | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | マネージメント | |
|---------------|---|--------------------------------|---------|--------|
| 科目名 | 明日への扉Ⅱ | | 担当教員名 | 吉村 元子 |
| 時間数 | 150 | 必修 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | LS-1 |
| 授業の到達目標 | 歌うための発声の基礎を踏まえて、表現に活かせるように学習する。とりわけ前期は、『明日への扉』の舞台へ向けて、作品内のナンバーに取り組む事をひとつの目標とする。 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>歌うための体作りと発声法の習得が主な内容。トレーニング方法を知り、積み重ねていくことで、歌の表現の幅を広げる。『明日への扉』のナンバーに関しては、個人指導を行う。</p> <p>【実務経験】1988年大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、教員免許取得。在学中より、バックコーラスとして宝塚歌劇団やTV、CM、コンサート、舞台等に出演。オペラや演奏会など活動を続けながら、2000年よりヴォイストレーナーとして指導にあたり、数々のアーティストを輩出している。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | VTの必要性 学び方 | | |
| 2 | 演習 | 舞台歌唱に必要なトレーニングとは。 | | |
| 3 | 演習 | オーディション対策として個人チェック。 | | |
| 4 | 演習 | ナチュラルヴォイス（自分のベストな声を知る） | | |
| 5 | 演習 | 腹式呼吸の再確認 | | |
| 6 | 演習 | 表情筋と声の繋がり | | |
| 7 | 演習 | ブレスコントロール（自由な歌唱表現の為のブレストレーニング） | | |
| 8 | 演習 | ピッチコントロール（正しい音程を身につける為のトレーニング） | | |
| 9 | 演習 | オーディション対策として個人チェック。 | | |
| 10 | 演習 | 正しい発音を身につける為の発音・滑舌トレーニング | | |
| 11 | 演習 | 共鳴について（声の響きを理解する） | | |
| 12 | 演習 | 歌唱と演技のつながり | | |
| 13 | 演習 | 個人歌唱 | | |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) | | |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) | | |
| 準備学習 時間外学習 | 前回の復習をしておく。楽譜に目を通す。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1.実技試験100% | | |
| 教材 | 教科書 | 『明日への扉』のヴォーカルスコアを使用する。 | | |
| | 参考書 | | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | マネージメント | |
|--|---|--------------------------|--------|
| 科目名 | 卒業制作 | 担当教員名 | 水島 秀樹 |
| 時間数 | 150 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 4年次 後期 |
| 授業の到達目標 | LS1 | | |
| <p>コンサート、ライブ、イベント全般通じてアーティスト、ゲストが楽しめる空間の構築。 ノークレームを目指す</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>イベントコンセプトの共有等ミーティングから、制作についての実務を行い、当日までのスケジュールを作成する。コンセプト、テーマを理解し、クライアントの要望に応えられる内容を制作し、他学科の学生と共有していく。</p> <p>【実務経験】1990年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。その後東宝芸能と契約、各テーマパーク等でダンサーとして活動、バンドとしても活動を行い1998年CDデビュー。2001年より東京スクールオブミュージックにてヴォーカルを担当。</p> | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | コンセプトミーティング | |
| 2 | 演習 | 各演目リーダー顔合わせ | |
| 3 | 演習 | 第1回テクニカル、運営ミーティング | |
| 4 | 演習 | リハーサル見学&各演目とのコンセプトミーティング | |
| 5 | 演習 | テクニカルリハーサル | |
| 6 | 演習 | 第2回テクニカル、運営ミーティング | |
| 7 | 演習 | クオリティチェックサポート | |
| 8 | 演習 | 演出ミーティング | |
| 9 | 演習 | 演出ミーティング&テクニカルミーティング | |
| 10 | 演習 | 全体リハーサル | |
| 11 | 演習 | 最終テクニカル、運営ミーティング | |
| 12 | 演習 | 全体リハーサル | |
| 13 | 演習 | 現場全体リハーサル | |
| 14 | 演習 | 本番 | |
| 15 | 演習 | 振り返り | |
| 準備学習 時間外学習 | 多くのアーティストのライブ映像をみておく | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技課題 100% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | プロデュース | |
|---------------|---|---|--------|--------|
| 科目名 | ミュージックビデオ制作1 | 担当教員名 | 林 耐治 | |
| 時間数 | 150 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 教室 | A503 | |
| 授業の到達目標 | <p>映像を制作していく上で、最低限必要とされる知識の習得。</p> <p>撮影、編集、CGの基礎的な技術の習得。</p> <p>映像作品を形成する、シーン構成、構図、色、カットティング、カメラワーク、被写体への演出などの意味を理解。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ドラマ、CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継と豊富な経験をもとに映像制作のノウハウを多岐にわたって指導していきます。講義と演習にて、講義では映像制作に必要な知識や考え方、演出方法などを教えます。実習は2種類。1つ目は、デフォルトとして毎回、課題を与え、ipadを利用して全員に30秒～1分程度の映像作品を制作してもらいます。もう一つは、スペシャルとして前期、後期各期に1作品、外部のスタジオなどを利用してPVを制作します。これは、学生全員で監督、プロデューサー、カメラ、編集などの役割を決め、1つの音楽作品を作る大掛かりな取り組みです。</p> <p>【実務経験】ドラマ・CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継など</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 映像についての概要とimovieの使い方を指導。課題音楽をベースに簡単なPVを制作。 | | |
| 2 | 演習 | 編集についての基礎（カットティングとモンタージュ） | | |
| 3 | 演習 | 撮影についての基礎1（構図） | | |
| 4 | 演習 | 撮影についての基礎2（カメラワーク） | | |
| 5 | 演習 | 絵コンテを描いて撮る①（対話シーン、単純な人物の動き） | | |
| 6 | 演習 | 絵コンテを描いて撮る②（複雑な人物の動き） | | |
| 7 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE Premiereと A f t e r E f f e c t s① | | |
| 8 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE Premiereと A f t e r E f f e c t s② | | |
| 9 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE Premiereと A f t e r E f f e c t s③ | | |
| 10 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 11 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 12 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 13 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 制作した映像を見て、詳細におよぶ振り返り | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1.授業に対する取り組み姿勢 50% 2.授業内で制作する作品および提出課題の出来 50% | | |
| 教材 | 教科書 | 講師より適時、プリントを配布 | | |
| | 参考書 | 月刊誌 ビデオサロン （玄光社より毎月 発行） | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | | プロデュース | |
|---------------|---|--|--------|--------|
| 科目名 | ミュージックビデオ制作2 | 担当教員名 | 林 耐治 | |
| 時間数 | 150 | 必修・選択 | 配当年次 | 4年次 後期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | A503 |
| 授業の到達目標 | 1年次に習得した知識、技術、感性の深化。より優れた映像作品の完成を目指す。 実習を中心に行い、作品を作りながら、あるいは作品の鑑賞を通じて、適宜、撮影、編集、演出の指導をしていく。 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する毎週、課題を与え映像作品を作ってもらおう。また、公募作品にも積極的に参加し、受賞を狙う。「現場感」を知り、被写体に演出と時間をかけ、「なっとくのいく良い絵作り」に挑戦してもらい、演出能力を高めてもらう。具体的には女性モデルを数人起用し、各モデルのオリジナルPVを制作。「かわいい」「きれい」「かっこいい」女性を撮影し、編集でCGなどを加えながら仕上げる。ミュージックビデオの制作は後期に予定しているが、学生の意欲と実力いかんでは前期も実施する可能性あり。</p> <p>【実務経験】 ドラマ・CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継など</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 1年次後期に作成したPVの検証。課題を与えて即興作品作り。 | | |
| 2 | 演習 | モデルPVの制作準備とトレーニング | | |
| 3 | 演習 | モデルPVの制作準備とトレーニング（編集編1）※チーム編成、内容決定 | | |
| 4 | 演習 | モデルPVの制作準備とトレーニング（編集編2）※絵コンテ制作 | | |
| 5 | 演習 | モデルPVの制作準備とトレーニング（撮影編） | | |
| 6 | 演習 | モデルPVの制作 | | |
| 7 | 演習 | モデルPVの制作 | | |
| 8 | 演習 | モデルPVの制作 | | |
| 9 | 演習 | モデルPVの制作 | | |
| 10 | 演習 | 公募用映像の制作 | | |
| 11 | 演習 | 公募用映像の制作 | | |
| 12 | 演習 | 公募用映像の制作 | | |
| 13 | 演習 | 公募用映像の制作 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 日頃からたくさんの作品を観ましょう。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1.授業に対する取り組み姿勢 50% 2.授業内で制作する作品および提出課題の出来 50% | | |
| 教材 | 教科書 | 講師より適時、プリントを配布 | | |
| | 参考書 | 月刊誌 ビデオサロン （玄光社より毎月 発行） | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | インターンシップ | |
|---------------|---|--------------------------|--------|
| 科目名 | インターンシップ2 | 担当教員名 | 水島 秀樹 |
| 時間数 | 300 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 4年次 前期 |
| 授業の到達目標 | 現場での実務を通して、職業人としての身構え・気構え・心構えを習得する。 | | |
| 授業の内容 | <p>業界の一員として、実務を経験する。社会人基礎力を身に着ける。</p> <p>研修日誌記入を通して、実務報告をする。</p> <p>【実務経験】1990年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。その後東宝芸能と契約、各テーマパーク等でダンサーとして活動、バンドとしても活動を行い1998年CDデビュー。2001年より東京スクールオブミュージックにてヴォーカルコース、企画コースを担当。</p> | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 研修ガイダンス（研修届、研修日誌の記入について） | |
| 2 | 演習 | 履歴書の記入 | |
| 3 | 演習 | 面接練習 | |
| 4 | 演習 | 職場でのマナー、報告連絡相談 | |
| 5 | 演習 | 業界研修1 | |
| 6 | 演習 | 業界研修2 | |
| 7 | 演習 | 業界研修3 | |
| 8 | 演習 | 業界研修4 | |
| 9 | 演習 | 業界研修5 | |
| 10 | 演習 | 業界研修6 | |
| 11 | 演習 | 業界研修7 | |
| 12 | 演習 | 業界研修8 | |
| 13 | 演習 | 業界研修9 | |
| 14 | 演習 | 業界研修10 | |
| 15 | 演習 | 振り返り・レポート提出 | |
| 準備学習 時間外学習 | ビジネスマナーの予習、研修日誌を記入し業務態度を振り返る | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 実技課題100% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | アントレプレナー実践 | |
|---------------|--|-----------------------------------|--------|
| 科目名 | アントレプレナー実践Ⅲ | 担当教員名 | |
| 時間数 | 150 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 4年次 前期 |
| 授業の到達目標 | 専門性を持った学生に対するアイデアの創出やビジネスモデルの構築を中心としたプログラムを実施することにより、将来の産業構造の変革を起こす意欲を持つようになることを目標にする。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する アントレプレナー実践Ⅰ・Ⅱで学んだことを土台にして、精度の高い事業計画書を作成する。 | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 前年度の振り返りと当該授業の内容説明 | |
| 2 | 演習 | 「ビジネスモデルキャンパス」のブラッシュアップ | |
| 3 | 演習 | 起業スケジュールを立てる | |
| 4 | 演習 | 事業計画書を作成する①～ビジョン、理念、目的～ | |
| 5 | 演習 | 事業計画書を作成する②～会社プロフィールと事業コンセプト～ | |
| 6 | 演習 | 事業計画書を作成する③～サービスや商品の強みと社会的背景～ | |
| 7 | 演習 | 事業計画書を作成する④～競合他社の動向（4Pチェックと3C分析）～ | |
| 8 | 演習 | 事業計画書を作成する⑤～市場規模と販売戦略～ | |
| 9 | 演習 | 事業計画書を作成する⑥～組織の形態を決める（社内組織図）～ | |
| 10 | 演習 | 事業計画書を作成する⑦～財務計画（売上計画、売上原価計画）～ | |
| 11 | 演習 | 事業計画書を作成する⑧～財務計画（人員計画、設備計画）～ | |
| 12 | 演習 | 事業計画書を作成する⑨～財務計画（利益計画、資金計画）～ | |
| 13 | 演習 | 事業計画書提出と模擬審査 | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | |
| 準備学習 時間外学習 | ・毎回授業内で作成する事業計画書の各項目の精度を上げるために、授業外の時間を使ってリサーチし、精査して次回までにブラッシュアップを行う | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 課題（事業計画書の内容） 100% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | アントレプレナー実践 | |
|---------------|---|------------------------------|--------|
| 科目名 | アントレプレナー実践Ⅳ | 担当教員名 | |
| 時間数 | 150 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 4年次 後期 |
| 授業の到達目標 | 専門性を持った学生に対するアイディアの創出やビジネスモデルの構築を中心としたプログラムを実施することにより、将来の産業構造の変革を起こす意欲を持つようになることを目標にする。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作成した事業計画書をもとに、起業のプロセスをシュミレーションする | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 前期の振り返りと「事業計画書」の再確認 | |
| 2 | 演習 | 起業シュミレーション①～基本事項の確認～ | |
| 3 | 演習 | 起業シュミレーション②～定款作成～ | |
| 4 | 演習 | 起業シュミレーション③～資本金の払込み～ | |
| 5 | 演習 | 起業シュミレーション④～登記書類作成～ | |
| 6 | 演習 | 起業シュミレーション⑤～登記申請～ | |
| 7 | 演習 | 起業シュミレーション⑥～登記後の各種行政などへの手続き～ | |
| 8 | 演習 | 起業シュミレーション⑦～印鑑証明書の交付～ | |
| 9 | 演習 | 起業シュミレーション⑧～税務署/税事務所への届出～ | |
| 10 | 演習 | 起業シュミレーション⑨～社会保険関係の手続き～ | |
| 11 | 演習 | 起業シュミレーション⑩～契約書作成、法人用銀行口座開設～ | |
| 12 | 演習 | 起業シュミレーション⑪～オフィスおよび備品などの整備～ | |
| 13 | 演習 | 総括とグループセッション | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | |
| 準備学習 時間外学習 | ・行政や金融機関などを実際に回り、提出必要な書類や手続きの方法を学び、会社設立のプロセスを経験する | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 課題（起業シュミレーションの内容を評価） 100% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |

スーパーeエンターテイメント科シラバス

| 授業科目 | | 専門留学 | |
|--|--------|---|------------|
| 科目名 | 専門留学II | | 担当教員名 |
| 時間数 | 300 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 |
| 授業の到達目標 姉妹校のザコレクティブスクールオブミュージックおよびエレクトロニックミュージック・コレクティブ（EMC）での3ヶ月から1年間の海外専門留学を通して、現地での専門技術、コミュニケーション技術、国際感覚を身につける。 | | | |
| 授業の内容 姉妹校のザコレクティブスクールオブミュージックおよびエレクトロニックミュージック・コレクティブ（EMC）にて3ヶ月から1年間の海外専門留学。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 専門留学 | |
| 2 | 演習 | 専門留学 | |
| 3 | 演習 | 専門留学 | |
| 4 | 演習 | 専門留学 | |
| 5 | 演習 | 専門留学 | |
| 6 | 演習 | 専門留学 | |
| 7 | 演習 | 専門留学 | |
| 8 | 演習 | 専門留学 | |
| 9 | 演習 | 専門留学 | |
| 10 | 演習 | 専門留学 | |
| 11 | 演習 | 専門留学 | |
| 12 | 演習 | 専門留学 | |
| 13 | 演習 | 専門留学 | |
| 14 | 演習 | 専門留学 | |
| 15 | 演習 | 専門留学 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 毎週の留学制作レポート報告 | |
| 成績評価 | | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1. 課題 100% |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |